

ごあいさつ

文部科学省のリーフレット「GIGAスクール構想の実現へ」の表紙では、「多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、子供たち一人一人に公正に個別最適化され、資質・能力を一層確実に育成できる教育ICT環境の実現へ」と謳っています。これは、様々な境遇に置かれている全ての子供たちの学びを助け、誰もが学習の喜びを真に享受することを目指すものと言えます。

先日2月16日に実施された国立教育政策研究所のシンポジウムにおいても、立命館大学の柏木智子先生は「E q u i t y : 子どもの個人的条件や置かれた環境に応じた資源配分」を実現することが、実質的な機会保障をもたらすと指摘されておりました。「ICTを活用した公正で質の高い教育の実現」に向けて、正に本格的な取り組みがグローバルに始められています。

こうした取組は本県においても先駆的に行われています。「広報誌教育ぐんま(475号)」によれば、ICTリテラシーを高めるための様々な試みとして、学校における情報モラル講習会や教職員研修、家庭における保護者の取り組み、県における誹謗中傷等による被害者支援等に対する法的整備などが紹介されています。

以上の通り、これからの学校教育におけるICTの活用は、授業実践だけでなく学校生活の多様な場面で広く検討され、成果が求められることとなります。

しかし、その一方でICT機器の管理から活用の実際に至るまで、課題は山積しています。本校ではこの1年、ICTの活用でどのような授業効果が期待できるかを模索して参りました。何のためのICT活用なのか、本当に子どもたちはICTの活用を望んでいるのか、ICTを使用しなくても授業効率は図れるのか、そして今年度本校の公開研究会のテーマである「社会に変革を起こす子どもの育成」にどの程度寄与したのか、といった疑問がどの授業研究会でも活発に議論されました。

本冊子は、本校におけるこれらの課題を精査しながら、研究成果をまとめ上げた事例集です。本冊子をご覧いただき、忌憚のないご批判、ご意見をいただけると幸甚です。私たちも未だ試行錯誤を繰り返しながら、子どもたちにとって本当に最適な授業設計とは何かを追究しています。SDGsの17の目標中「4.質の高い教育をみんなに」の実現に向けて、ICT活用が大きな担い手となれるよう精進して参ります。

群馬大学共同教育学部附属小学校 校長 吉田秀文